

5 因果関係を明確に表現する

日本文では「～である。～となった。」というに、自然にある状態になった、という形式の表現が多いですが、英文では「誰が何をどうした。」というように、動作の主体のあるものに対する行動を表現する形式の文が多くなります。基本文型の（主語＋動詞＋目的語）が英語思考の基本になります。このため、英文で日本文の内容を表現するときには、日本文では婉曲表現で隠されているか、曖昧にされている因果関係を明確にする必要があります。まずは動作の主体である主語を決めますが、そのほかにも因果関係を明確にする方法があります。

例題 1：初級練習問題 87

「今年の夏は長雨と低温傾向のために熊本県内の海水浴場やビアガーデンへの客足は大きく減少した。」

この日本文には因果関係が記述してありますね。ただし、日本文の特徴として「長雨と低温」のために「客足」が「減少した」という「客足が（自然に）減少した」という表現になっています。

ではまず、日本文の表現形式を保ったままで、小文に分割してみましょう。

1. 「今年の夏に熊本県では長雨と低温傾向があった。」
2. 「（海水浴場やビアガーデンに行く）人の数が減少した。」
3. 「人々は海水浴場やビアガーデンに行く。」

1. There was a long period of rain and low temperatures this summer in Kumamoto Prefecture.
2. The number of people decreased.
3. People went to seaside resorts and beer gardens.

1が原因で2, 3が結果ですね。ではこの因果関係を入れて1, 2, 3を一つの文章にしてみましょう。

There was a long period of rain and low temperatures this summer in Kumamoto Prefecture. As a result, the number of people going to seaside resorts and beer gardens decreased.

この英文は日本文の表現形式に近いですね。次のようにすると、英文の因果関係の表現方法に近くなります。

The number of people going to seaside resorts and beer gardens decreased this summer in Kumamoto Prefecture because there was a long period of rain and low temperatures.

原因を主語にして結果が目的語で表現できれば、因果関係が一番明確になります。ではこのような表現方法が可能か、しらべてみましょう。

原因は「長雨と低温傾向」です。結果は「客足」ですから、「長雨と低温傾向が客足を減少させた。」と表現できればよいですね。ここで「減少させた」となっていることに注意してください。英文では A reduced B. という形になりますから、この形になるように上の英文を書き換えましょう。

A long period of rain and low temperatures this summer reduced the number of people going to seaside resorts and beer gardens in Kumamoto Prefecture.

この英文を見ると、もとの日本語がつぎのようになっていれば、英文の表現が簡単になるはずですが。

「今年の夏は長雨と低温傾向のためにが熊本県内の海水浴場やビアガーデンへの客足はを大きく減少したさせた。」

この例に見られるような、日本語と英文の表現形式の相違（発想の相違）を理解すると、因果関係の明確な英文を書くために役立ちます。

例題 2：初級練習問題 105

「10月10日午後8時40分ごろ、東京都武蔵野市のJR中央線の踏切で、高架工事で幅が広がったため乗用車が渡りきれず電車が緊急停止した。」

この文の内容の因果関係を分析すると、二つの因果関係が含まれていることがわかります。

1. 「10月10日午後8時40分ごろ、東京都武蔵野市のJR中央線の踏切で、（乗用車が踏切内にいたので）電車が緊急停止した。」
2. 「高架工事で幅が広がったために、乗用車が踏切を時間内に渡りきれなかった。」

このように因果関係を明確にすると1は次のような二つの小文に分割できます。

「10月10日午後8時40分ごろ、東京都武蔵野市のJR中央線の踏切で、電車が緊急停止した。」

下線の部分は日時と場所の修飾句ですから、文の骨格は「電車が緊急停止した。」になります。内容としては「電車が急に止まった。」A train stopped suddenly. ですが、こうすると自動制御装置で電車が自然に停止した、ようにおもえるので、A train made an emergency stop.がよいでしょう。（主語 + 動詞 + 目的語）の文型です。

日時と場所の修飾句は、「細かい所から大きな所へ」が英文の原則なので、at about 8:40 am on October 10, at a level crossing of JR's Chuo Line in Musashino City, Tokyo と表現できません。これらの修飾節を文に入れて、At about 8:40 am on October 10, a train made an emergency stop at a level crossing of JR's Chuo Line in Musashino City, Tokyo.となります。

「乗用車が踏切内にいた。」

There was a passenger car in the crossing.

理由を示す because と使って2番目の文を従属節にします。

At about 8:40 am on October 10, a train made an emergency stop at a level crossing of JR's Chuo Line in Musashino City, Tokyo, because there was a passenger car in the crossing.

「高架工事で幅が広がったために、乗用車が踏切を時間内に渡りきれなかった。」も二つの小文に分割できます。

「乗用車は時間内に踏み切りを渡れなかった。」

The passenger car could not cross the crossing in time.

「踏み切りは高架工事中に幅げ長くされた。」

The crossing was made longer during the construction of an elevated rail track.

この二つの小文も理由を示す because を使って、2 番目を従属節にしてつなぐことができます。

The passenger car could not cross the crossing in time because the crossing was made longer during the construction of an elevated rail track. 下線部分は because 以下の内容でわかるので省略できます。

The passenger car could not cross in time because the crossing was made longer during the construction of an elevated rail track.

文章全体は二つの因果関係が明確に入って、つぎのようになります。

At about 8:40 am on October 10, a train made an emergency stop at a level crossing of JR's Chuo Line in Mussashino City, Tokyo, because there was a passenger car in the crossing. The passenger car could not cross in time because the crossing was made longer during the construction of an elevated rail track.

例題 3 : 初級練習問題 1 1 5

「今年4月から家庭ごみの収集が有料化された北海道名寄市では、9月までの半年間の市収集のごみの量が41%も減った。」

一つの文の中にいろいろな情報が入っている日本文ですね。まずは小文に分割しましょう。小文に分割するコツは、英文で表現する時の主語を適切に選ぶ、英語の基本文型が使えるようにする、の二つです。

「今年4月から家庭ごみの収集が有料化された北海道名寄市では、」連体形修飾節が使われているので、小文に分割する候補です。「有料化」が問題ですね。和英辞書を引いても「有料化」は載っていないものが多いです。「有料」で a charge、有料の用例で「有料に値する」worth charging for、「有料サービス」pay service などが見つかります。「有料化」は「有料にすること」を短く表現した形です。「有料化」が和英辞書で見つからないなら、まず日本語で言い換えてみましょう。

名寄市を英文の主語にする予定で「今年四月から、名寄市は家庭ごみの収集に特別料金を課した。」と言い換えられます。a charge が有料料金という名詞ですから、charge という動詞の用法を辞書で調べてみましょう。私は Collins COBUILD English Dictionary を良く使いますが、この辞書に charge は次のように説明してあります (COBUILD) の特徴は charge の説明の文自体に charge の使い方が書いてある点です。

If you charge someone an amount of money, you ask them to pay that amount for something that you have sold to them or done for them.

用例として次のものが載っています。

The hospitals charge the patients for every aspirin.

どうやら、charge が小文の英文表現に使いそうですよね。

The City of Nayoro charges citizens extra fees for garbage collection.

これは（主語＋動詞＋目的語1＋目的語2）という基本文型です。「名寄市は」は「名寄市役所は」のことですね。英文でも The City of Nayoro は地理上の名寄市と行政上の名寄市役所のどちらの意味にも使えます。上の日本文の内容に即してこの英文を書き換えましょう。

The City of Nayoro began to charge citizens extra fees for garbage collection in April.
名寄市民は既に地方税を払っているので、extra fees とします。

名寄市民を英文の主語にするつもりなら、次のような小文をつくります。

「今年四月から、名寄市民は家庭ごみの収集のために名寄市に特別料金を払い始めた。」

The citizens of Nayoro pay the City of Nayoro extra fees for garbage collection in April.が基本形です。文の内容に即すと、

The citizens of Nayoro started paying the City of Nayoro for garbage collection in April.

二つの小文とその内容の英文が出来ました。どちらを使うかは残りの小文を作ってから考えましょう。

「9月までの半年間の市収集のごみの量が41%も減った。」

「今年四月から9月半ばまでに、家庭ごみの量が41%減った。」

「名寄市が家庭ごみを収集する。」

The amount of household garbage decreased 41 percent from April to mid-September this year.

The City of Nayoro collects household garbage.

さて次に、英語の小文を並べてみましょう。最後の小文の主語が the City of Nayoro なので最初の二つの小文から名寄市を主語にした方を使ってみましょう。

The City of Nayoro began to charge citizens extra fees for garbage collection in April.

The amount of household garbage decreased 41 percent from April to mid-September this year.

The City of Nayoro collects household garbage.

（受動態では Household garbage was collected by the City of Nayoro.）

うえの三つの英語の小文で日本文の内容は伝わりますが、内容に重複がありますね。内容の因果関係（論理的な構成）を考えて、重複を省略しましょう。

The amount of household garbage that was collected by the City of Nayoro¹ decreased 41 percent from April to mid-September² since³ the City of Nayoro began to charge citizens extra fees⁴ for garbage collection in April.

（1）ここは関係代名詞を使うと従属節として表現できます。

（2）ここと文の最後の April と重複してますね。

（3）「～の時から」という従属節を使うと文の内容の時間的な論理構成がはっきりします。

（4）ここは since 以下の所と内容が重複します。

次のようにして重複を省略できます。

The amount of household garbage collected by the City of Nayoro has¹ decreased as much

as² 41percent in just over six months³ since the City⁴ began to charge⁵ for garbage collection in April this year.

(1) 「今までに既に41パーセント減った。」ということ強調するために現在完了形を使います。

(2) as much as 41 percent 「41パーセントも」と日本語の「も」に相当する強調の言葉ですが、無くても良いでしょう。

(3) このように言い換えられます。

(4) 既に the City of Nayoro と文の中に出てくるので the City と省略できます。ここでは the City of Nayoro のことを指すように the city と小文字ではなく the City と大文字にしました。

(5) 既に名寄市が家庭ごみを収集することは文の中にでているので、the City began to charge for garbage collection と省略できます。

この例題のように、英語の小文の並び方を論理的にする、従属節を使って因果関係をはっきりする。小文の間の重複を省略する、ことで簡潔な英文のできます。一度に短時間でこの三つの方法をマスターすることは難しいですが、英作文の練習を重ねるうちに確実に上達します。

例題 4：初級練習問題 96

「鳴門市は市内全18小学校への教育用コンピューターの追加配置を終了。コンピューター教室で児童一人に一台のパソコン配備を、県内の自治体では初めて実現させた。」

「鳴門市は市内全18小学校への教育用コンピューターの追加配置を終了。」は「AはBを終了した。」という骨格の文ですから(主語+動詞+目的語)の基本文型で表現できそうですね。主語は「鳴門市」、The City of Naruto、動詞は「終了した」で has completed と現在完了形にして単に「終了した」だけでなく「完了した」ことを強調しましょう。

目的語は「教育用コンピューターの追加配置」で the distribution of additional computers for students と表現できます。「追加配置」とあるので the additional distribution of computers for students としたくなりますが、これだと「配置」が強調されるので、最初の表現のほうがよいでしょう。「教育用」は多分、「事務用」との対比でしょうから、for students と表現できます。for educational purposes と直訳すると、「事務用」も「生徒用」もともに学校に配置されるので、共に「教育用」となり、意味が漠然とします。日本文の字句にとらわれずに、具体的に表現するのがよいでしょう。この文の内容はつぎのような英文で表現できます。

The City of Naruto has completed the distribution of additional computers for students to all eighteen primary schools in the city.

「コンピューター教室で児童一人に一台のパソコン配備を、県内の自治体では初めて実現させた。」

二つの小文に分けられます。

1. 「(鳴門市は)県内で最初の自治体となった。」

日本文で主語は省略されていますが、鳴門市ですね。The Naruto City has become the first municipality in the prefecture. 自治体には市町村がありますが、英語では

municipality がこれにあたります。

2. 「(すべての学校の) コンピューター教室で一台のコンピューターが一人の児童にわりあてられる。」
One computer is available for each student in the computer room of all primary schools.

1 と 2 を並べると、The Naruto City has become the first municipality in the prefecture. One computer is available for each student in the computer room of all primary schools. となりますが、このままでは二つの文の間の関係が曖昧ですから、関係代名詞の where で二つの文を結びましょう。The Naruto City has become the first municipality in the prefecture where one computer is available for each student in the computer room of all primary schools.

文章全体はつぎのようになります。

The City of Naruto has completed the distribution of additional computers for students to all eighteen primary schools in the city. The Naruto City has become the first municipality in the prefecture where one computer is available for each student in the computer room of all primary schools.

上の二つの文は主語が共に the City of Naruto で内容が密接に関連していますから、一つの文につなげて重複を省略できます。for students は 2 番目の文の内容から明らかなので省略しましょう。

The City of Naruto has completed the distribution of additional computers to all eighteen primary schools in the city and become the first municipality in the prefecture where one computer is available for each student in the computer room of all primary schools.

例題 5 : 初級練習問題 100

「広島県は1995年に県内で絶滅の恐れのある野生動物のリスト、レッドデータブックを発刊したが、現在改訂版の準備をすすめている。」

次のように分割してみましょう。

1. 「広島県はレッドデータブックの改訂版の準備をすすめている。」
The Prefecture of Hiroshima has been preparing an update to its Red Data Book. とすると(主語+動詞+目的語)の文型になります。「準備をすすめている」は has been preparing がよいでしょう。「レッドデータブック」は固有名詞として大文字にします。「レッドデータブックの改訂版」は直訳では an updated version of its Red Data Book となりますが、an update to its Red Data Book とすると簡単になります。its は「広島県の発行した」ということを表現するために使います。
2. 「レッドデータブックは1995年に発刊された。」
The Red Data Book was published in 1995.
3. 「レッドデータブックは県内の絶滅の恐れのある野生動物をリストしている。」
The Red Data Book lists endangered wild animals in the prefecture. 「絶滅の恐れのある野生動物」は endangered wild animals が英語の一般的な表現方法ですが、和英辞書では見つかりませんね。「野生動物は絶滅の危機に直面している。」と内容を説明して、Wild animals are facing risk of extinction. と表現して、The Red Data Book lists wild animals in the prefecture that are facing risk of extinction. と表現すればよいでしょう。

小文を並べてみましょう。

The Prefecture of Hiroshima has been preparing an update to its Red Data Book. The Red Data Book was published in 1995. The Red Data Book lists endangered wild animals in the prefecture.

the Red Data Book が三つの文に共通しているので、関係代名詞が使えるそうですね。

The Prefecture of Hiroshima has been preparing an update to its Red Data Book that was published in 1995 and listed endangered wild animals in the prefecture.

これで三つの小文がつながりました。もう少し工夫をすると、つぎのように簡略に出来ます。

The Prefecture of Hiroshima has been preparing an update to its 1995 Red Data Book that lists endangered wild animals in the prefecture.

6 比較級を正確に使う

英文では A is better than B. と比較の対象となるものを記述するのが原則です。比較の対象が明らかな場合は省略されることもありますが、文の内容を正確につたえるためには、常に対象を文中に入れるのがよいでしょう。

例題 1：初級練習問題 104

「北海道の女性の肌は色白だが、しわは多め。ポーラ化粧品本舗が10月8日までにまとめた女性の肌の全国的な調査で、こんな結果が明らかになった。」

次のように小文に分割しましょう。

1. 「北海道の女性の(日本の他の地域の女性と較べて)もっと色白の肌を持っているが、もっと多めのしわを持っている。」ここでは比較の対象として「日本の他の地域の女性」を入れましょう。
Women in Hokkaido have fairer complexions but have¹ more wrinkles than the women² in the rest of Japan.
1の have は省略できません。2の the women は those と置き換えられます。
Women in Hokkaido have fairer complexions but more wrinkles than those in the rest of Japan.
2. 「ポーラ化粧品本舗が10月8日に全国調査の結果を発表した。」
Paula Cosmetics Company released the result of a national survey on October 8.
日本文には「ポーラ化粧品本舗が10月8日までにまとめた、」とありますが、これは「ポーラ化粧品本舗が10月8日に発表した」でよいでしょう。
3. 「これはこの全国調査からの結果である。」
This is the result from a national survey.

2と3を関係代名詞を使って連結すると次のようになります。

This is the result from a national survey that Paula Cosmetics Company released on

October 8.

文章は次のようになります。

Women in Hokkaido have fairer complexions but more wrinkles than those in the rest of Japan. This is the result from a national survey that Paula Cosmetics Company released on October 8.

例題 2：初級練習問題 122

「徳島の民間経済研究所が12月18日発表した県内主要企業の2003年冬季ボーナス支給動向調査によると、1社当たりの平均支給額は昨冬の実績に比べ2100円(0.6%)増の37万1400円と3年ぶりに増加した。」

長い文ですから、まずは小文分割です。「徳島の民間経済研究所が12月18日発表した県内主要企業の2003年冬季ボーナス支給動向調査」は長い連体形修飾節ですね。「12月18日に徳島市の民間経済研究所が2003年冬季ボーナス調査の結果を発表した。」「冬季ボーナスは徳島県内の主要企業が払った。」と二つの小文にしましょう。前者は(主語+動詞+目的語)、後者は同様に(主語+動詞+目的語)の基本文型、ただし受動態、で表現できます。

On December 18, a private economic research institute in the City of Tokushima announced the results of its survey of winter bonuses.

The winter bonuses were paid by major companies in the Prefecture of Tokushima.

上の二つを関係代名詞でつなげると次のようになります。

On December 18, a private economic research institute in the City of Tokushima announced the results of its survey of winter bonuses (that were) paid by major companies in the Prefecture of Tokushima.

「1社当たりの平均支給額は昨冬の実績に比べ2100円(0.6%)増の37万1400円と3年ぶりに増加した。」

この文に出てくる数字の比較は、新聞記事でよくお目にかかる表現方法です。幾つかの内容を凝縮して表現しているので、まず要素に分解しましょう。「今年の冬のボーナスの平均値は37万1400円であった。」「これは昨年より2100円(0.6パーセント)多かった。」「ボーナスの平均値は過去三年間で初めて増加した。」と三つの小文に分解できます。

The average amount of winter bonus this year was 371,400 yen.

「一社当たりの」はおまけの表現で、英文では単に the average amount でよいですね。

This was 2100 yen higher than (that) last year.

The average amount of winter bonus increased for the first time in the last three years.

「三年ぶりに増加した」は「(今年を入れて数えて)過去三年間で初めて増加した」と言い換えられますね。

では、上の三つの小文をうまく連結して簡略化できるか考えましょう。

The average amount of winter bonus this year was 371,400 yen, ~~which~~ ~~This~~ was 2,100 yen (0.6 percent) higher than ~~(that)~~ last year, ~~and The average amount of winter bonus~~ increased for the first time in the last three years.

三つの小文は主語が全部 the average amount of winter bonus ですから、上のように入れんげつできますね。真ん中の関係代名詞は補足説明になっています。

The average amount of winter bonus this year was 371,400 yen, which was 2,100 yen (0.6 percent) higher than last year, and increased for the first time in the last three years.

こうすると日本文の構成のように、ここはひとつの文になります。しかし、読み直してみるとどうも文のリズムが良くないです。関係代名詞がリズムを乱しているように感じます。

関係代名詞を取り除いて、次のようにしてみましょう。

The average amount of winter bonus this year was 371,400 yen and 2,100 yen (0.6 percent) higher than last year. The average amount of winter bonus increased for the first time in the last three years.

このほうが文にリズムがあり、また内容もわかりやすいです。主語が同じでも文を and や but で並列に長く続けると、内容がわかり難くなります。しつこく見えますが、主語を明確に繰り返すほうが読者に内容がわかりやすくなります。

7 時間の相互関係を表現する

英文は日本文に較べて時間の相互関係の表現が厳しいのが特徴です。しかし、割合に規則性のあるものなので、英作文の練習をするうちに理解できるようになります。また、プレイン・イングリッシュのスタイルで書く実務文にはあまり複雑な時間関係の記述は少ないです。もし、このような複雑な時間関係がある場合は内容を言い換えて、簡単な時間関係で表現できるように工夫します。

例題 1：初級練習問題 132

「阪神大震災の被災者用の公営復興住宅で、一人暮らしの人が誰にもみとられずに亡くなる孤独死が、2000年以降の四年間で251人に上っていることが兵庫県調査でわかった。」

Over the last four years, two-hundred and fifty-one people have died¹ in temporary public housing for those who lost² their own homes during the Great Hanshin Earthquake. Those two-hundred and fifty-one people were living³ alone and no one was taking care of³ them when they died. This is⁴ the result from a recent survey conducted by the Prefecture of Hyogo.

1. 「2000年以降 現在まで の四年間で亡くなった」ので現在完了形で have died とすると、「これからも亡くなる方が出るだろう」という気持ちが文に含まれます。日本文の「251人に上っている」にはこのような意味が含まれているのでしょう。単に died とすると、このような含意はありませんが、内容はわかります。
2. この記事が書かれた時点で、過去の出来事なので過去形にします。

3. People lived alone and no one took care of them.で日本文の内容は表現できますが、People were living alone and no one was taking care of them.とすると「進行形」なので臨場感があって表現が強くなります。live と take care of はそれ自体である動作が進行している状態を示す動詞ですが、それを進行形で表現することで内容が強調されます。現在完了形の用法と同様に英語風の表現方法なので会得するのが難しいですが、このような内容の日本文があるときには、現在完了形、進行形を使ってたらどうなるか試してみてください。
4. この記事の書かれた時点で、調査は完了しているが、調査書の内容は現在も有効である、ので現在形で表現できます。過去の調査で、内容が現在も正しいかどうかはわからないが、という時には This was the result from a recent survey.となります。ただし、「過去には正しかったが現在はどうかわからない」という視点に重点を置かずに時制の一致という英文の慣習に従って This was the result of a recent survey.と書く人も多いです。The survey was recently conducted by the Prefecture of Hyogo. という内容から This was the result of the survey.という文が派生しているので、時制の一致が適用する、という考えです。さてこうなると「is, was のどっちにするの?」ということですが、一般的には時制の一致で過去形、特に内容が現在もあてはまるということを強調したい場合は現在形、が私の用法です。

例題 2：初級練習問題 65

「2003年5月26日は午後六時二十四分に東北地方に地震が起きました。大船渡市では震度6弱という大きなゆれがありました。その十二分後の六時三十六分に、盛岡地方気象台が「大船渡には津波の心配はありません」と発表しました。実際、津波は来ませんでした。もし津波が発生していたら、大船渡には地震後、五分後には最初の波が来ていただろうと考えられます。」

日本文の内容を事柄の時間を追って記述してあるので、英文で表現するときも、日本文の内容の順を追って行って問題なさそうですね。

「2003年5月26日は午後六時二十四分に東北地方に地震が起きました。」

「地震が起きました。」は地震を主語にして An earthquake happened. と主語+動詞の基本文型で表現するのが一番やさしいですね。あとは日時と場所を文に付け加えます。英文では一般に日時+場所の順序になります。日時は一番細かいところから始めます。at twenty-four minutes after six o'clock in the evening on the twenty-sixth of May, 2003 in the Tohoku region とすると、一番フォーマルな表現方法ですが、何かと毎日忙しい今日では、英文の表現方法も簡略にして一目でわかるようにするのが通例です。at 6:24 pm on May 26, 2003 in the Tohoku region. とずいぶん短くなります。「午後」の省略形式は p.m. と pm とありますが、ここでもピリオドを省略した pm が流行ってきています。

予想がつかない事柄が起きるときには It happened. のように happen をよく使います。(主語+動詞+目的語)の基本文型を使うと An earthquake hit the Tohoku region と表現できます。hit は目的語を必要とするので、「何が~に~する」となって「地震が東北地方を襲った」という感じになり、表現が強くなります。

An earthquake hit the Tohoku region at 6:24 pm on May 26, 2003.

「大船渡市では震度 6 弱という大きなゆれがありました。」

一見、やさしそうに見えますね。There was 震度 6 弱のゆれ in the City of Ohfunato. とし
て「震度 6 弱のゆれ」を入れればよいようです。研究社和英中辞典で「震度」を引くと、「震
度 6 の地震」 a tremor with an intensity of 6 on the Japanese seven-stage seismic scale とで
ています。これを応用すると There was a tremor with an intensity of lower 6 on the
Japanese earthquake scale in the City of Ohfunato. と表現できます。これでもよいですが、
一般的に There is (are) ~. という表現は主語がはっきりしないので弱いので、もう少し考え
てみましょう。英辞郎を「震度」で引くと、「震度 6 強を記録する」 register an upper 6 on
the Japanese earthquake scale という用例が見つかります。これを応用して The
earthquake registered an lower 6 on the Japanese earthquake scale in the City of Ohfunato.
と表現できます。こうすると「この地震が」と主語がはっきりします。

「その十二分後の六時三十六分に、盛岡地方気象台が、大船渡には津波の心配はありませ
ん、と発表しました。」

内容を二つの小文にわけてみましょう。

「その十二分後の六時三十六分に、盛岡地方気象台が次のことを発表した。」

Twelve minutes later at 6:36 pm, the Morioka Meteorological Observatory announced the
following.

「大船渡に津波が来る危険は無い。」

There will be no risk of tsunami coming to Ohfunato. 「大船渡では津波の危険は無い。」
There will be no risk of tsunami in Ohfunato. でもよいですが、上のようにすると「津波が来
る」という感じがでます。

二つの小文をつなげると次のようになります。

Twelve minutes later at 6:36 pm, the Morioka Meteorological Observatory announced that
there would be no risk of tsunami coming to Ohfunato.

日本文では「大船渡には津波の心配はありません」と引用句にして強調していますが、英
文では引用句が短いので間接引用でよいでしょう。「津波の危険は無い」はこの発表の辞典
では未来のことですが、この文章全体が過去の記述ですから、この過去の時制に合わせて、
there would be no risk of tsunami coming to Ohfunato. となります。

「実際、津波は来ませんでした。が、もし津波が発生していたら、大船渡には地震後、五分
後には最初の波が来ていただろうと考えられます。」

「実際、津波は 大船渡市 に来なかった。」

In fact, a tsunami did not come to Ohfunato.

「(本当はそうではないが) もし津波が起こったと 仮定すると、この津波の最初の波は
地震の五分後に大船渡に到着しただろう。」

この文の内容が「実際におこらなかったが、もし起きたとしたら、こうなっただろう。」と
いう仮定法ですね。英文法の本にはこのような仮定法が詳しく載っていますが、実務文で
はこの仮定法を使う場合は少ないです。実務文は事実の記述が多く、このような仮定の条
件の記述が少ないためでしょう。この添削講座の練習問題でも、このような仮定法はごく

すくないですね。逆に英会話では良く出てきます。

実際に起こる可能性がある場合を考えて見ましょう。はじめは未来形の場合です。

「もし津波が起こると、この津波の最初の波は地震の五分後に大船渡に到着するだろう。」
If there is a tsunami, the first wave of the tsunami will reach Ohfunato five minutes after the earthquake.

日本文は過去のことを記述しているので、この文を過去形にしましょう。
If there was a tsunami, the first wave of the tsunami would reach Ohfunato five minutes after the earthquake.

そしていよいよ「実際には起こらなかった仮定法」にします。この仮定法では時制がひとつ過去に遡ります。

If there had been a tsunami, the first wave of the tsunami would have reached Ohfunato five minutes after the earthquake.

これでよいですが、would を could にすると「到着することが出来た」となって内容が強くなる伝わります。

If there had been a tsunami, the first wave of the tsunami could have reached Ohfunato five minutes after the earthquake.

文章全体は次のようになります。

An earthquake hit the Tohoku region at 6:24 pm on May 26, 2003. The earthquake registered an lower 6 on the Japanese earthquake scale in the City of Ohfunato. Twelve minutes later at 6:36 pm, the Morioka Meteorological Observatory announced that there would be no risk of tsunami coming to Ohfunato. In fact, a tsunami did not come to Ohfunato. But if there had been a tsunami, the first wave of the tsunami could have reached Ohfunato five minutes after the earthquake.

例題 3 : 初級練習問題 1 2 3

「秋田市の住宅街に出没し、12月17日に同市の森山動物園に保護された雄のニホンザルは18日仁別の山林に運ばれ自然に放たれた。サルは再び人里へ下りてきた時に判別できるように、頭や腰をスプレーで黒色に塗られた。」

日本文の内容は一読してわかりますが、英文で表現しようとする、どこから手を付けていいのか迷いますね。どうしてでしょうか？

「秋田市の住宅街に出没し、12月17日に同市の森山動物園に保護された雄のニホンザルは18日仁別の山林に運ばれ自然に放たれた。」

この文は長い長い連体形修飾節が「雄のニホンザル」の前に付いています。この連体形修飾節を英文で表現するのが先ず曲者です。日本文の連体形修飾節は、文の内容を続けていくための日本文の方法です。英文で表現するときには、連体形修飾節の内容を独立の文にしてみる、という英作文の方法がありますね。では内容を小文に分割しましょう。

「雄のニホンザルが秋田市の住宅街に出没した。」
「このニホンザルは12月17日に森山動物園に捕獲された。」
「このニホンザルは12月18日に仁別の山林に放たれた。」

「出没する」は字句どおりに解釈すれば「出てきたり、またいなくなったりする」ことですね。和英辞書を引いてみましょう。「出没する」make frequent appearances とあります。A male Japanese monkey made frequent appearances in the residential district of Akita City. これで内容は伝わりますが、made frequent appearances が立候補者が何回も選挙演説に来た、ような感じになるので、なにか他の言い方を考えて見ましょう。サルが「あっちこつと歩き回った」というのはどうでしょうか。「(あてもなく)歩き回る」は roam という言葉があります。walk around としても良いでしょう。

A male Japanese monkey often roamed the residential district of Akita City.

On December 17, the monkey was captured by Moriyama Zoo.
このサルは森山動物園に「保護された」そうですが、要するに「捕まった」のですね。サルを強調して受動態で表現しました。

On December 18, the monkey was released into the forests in Nibetsu.
「仁別の山林に運ばれ自然に放たれた」そうですが、内容としては「仁別の山林に放たれた」ですね。On December 18, the monkey was carried to Nibetsu and was released in the natural environment of forests. とすると日本文の構成に近くなりますが、上のように内容の要点だけを表現したほうがわかりやすいでしょう。

さて、三つの小文を並べてみましょう。

A male Japanese monkey often roamed the residential district of Akita City. On December 17, the monkey was captured by Moriyama Zoo. On December 18, the monkey was released into the forests in Nibetsu.

これでも三つの小文は時間の順序に従って並べてあるので、内容がよくわかります。少し、小文のつながりを良くする方法を考えましょう。

On December 17, a male Japanese monkey that had been often roaming the residential district of Akita City was captured by Moriyama Zoo. On December 18, the monkey was released into the forests in Nibetsu.

関係代名詞を使って A male Japanese monkey often roamed the residential district of Akita City. を二番目の文と結合しました。ここで動詞の時制に注意してください。本文の動詞は captured と過去形です。サルは市外をうろつき回ったのはその以前の話ですから、captured を基準にして時間が一つ遡ります。過去形 > 過去完了形になります。

「サルは再び人里へ下りてきた時に判別できるように、頭や腰をスプレーで黒色に塗られた。」

「サルは頭や腰を黒いペンキでスプレーされた。」
The monkey was sprayed with black paint on the head and hip.

「ペンキは(サルが再び住宅地に来たときに)人々がこのサルを識別するのに役立つ。」
The paint will help people to recognize the monkey when it comes down to the residential district again.

「人里」は住宅地より広い範囲を指すのですが、ここでは「住宅地」としておきましょう。

では小文を全部並べて見ましょう。

On December 17, a male Japanese monkey that had been often roaming the residential district of Akita City was captured by Moriyama Zoo¹. On December 18, the monkey was released into the forests in Nibetsu². The monkey was sprayed with black paint on the head and hip³. The paint will help people to recognize the monkey when it comes down to the residential district again⁴.

時間の順序が2と3で逆になっていますね。順序を入れ替えてから、2と3をつなげてみましょう。

The monkey was sprayed with black paint on the head and hip and released into the forests on the following day.

4は未来形ですが、この記事の書かれた時点以降現在まで通用する事柄なので、未来系のみままでよいです。次のようにすると、本文の動詞がwas paintedと過去形なのでwillがwouldに時制の一致の原則で変わります。

The monkey was painted because the paint would help people recognize the monkey when it came down to the residential district again.

文章全体は次のようになりました。

On December 17, a male Japanese monkey that had been often roaming the residential district of Akita City was captured by Moriyama Zoo. The monkey was sprayed with black paint on the head and hip and released into the forests on the following day. The paint will help people to recognize the monkey when it comes down to the residential district again.